

ひいじいちゃんへ
かなうより

二〇一九年も半分(一月〜六月) 終わりましたね。先月二十日は夏至でした。だんだん日が短くなっていくと思つと気分が沈みます。

六月は法衣(仏事で)を着なかつた日は七日でした。例年、六月は法衣を着る日が七日くらいなので、今年は法衣を着なかつた日がわずか七日、仏事の多い例外の年でした。

その多かつた仏事ご縁の中で、うれしくなる出来事がありました。六月八日に興梶澄男家のご法事を仏参にてつとめました。武記さまの二十五回忌と登さまの十七回忌の併修にてのご法事でのことです。お莊嚴を済ませて五条袈裟を着けようかなと思つたところに澄男さんが一枚の紙を差し出されて、これを読んでくれと言われました。何なのかなと思つて読み始めると澄男さんのお孫さ

んがひいじいちゃん(登さま)に当てる書かれたもの(下記コラム「ひいじいちゃんへ」)でした。現在小学三年生(この文章を書いた時は小学二年生)の荒尾華叶ちゃんが書いたもので一部手を加えたところもありますが、ほぼ、原文どおりです。大事なことが書かれてありますよ。まず、「いつも見まもつてくれてありがとう」と、亡き人が私を支えてくださる存在であることについて述べてあります。次に命の相続について、「ひいじいちゃんたちのおかげでわたしのいのちができました」とあります。ご先祖があるからわたしの命が今ここに あることを知っている。どなたか教えられたのでしょいか、そうでないとすれば小学二年生です(いこと)です。

法語の世界

《原文》

弥陀をたのめば南無阿弥陀仏の主になるなり。南無阿弥陀仏の主になるといふは、信心をうることなりと云々。また、当流の真実の宝といふは南無阿弥陀仏、これ一念の信心なりと云々。

『蓮如上人御一代記聞書』二百三十七

《現代語訳》

「弥陀を信じておまかせすれば、南無阿弥陀仏の主になるのである。南無阿弥陀仏の主になるといふのは、信心を得るということである。また、浄土真宗において、真実の宝というのは南無阿弥陀仏であり、これが信心である」と仰せになりました。

金光寺からの連絡

初盆会について

初盆会について、日時を決め、お齋の予定をお立ての際は早目にご連絡ください。受付順に日時を決めます。本年7月4日現在、25軒が初盆会をお迎えになります。お齋の予定がない場合も連絡ください。当山の空いている時間にお参りをいたします。



年回忌について

◎ お忘れではないですか

昨年中に本年、年回忌をお迎えになるお宅にはご案内をお届けしています。まだ、おつとめになっていないお宅があります。お忘れではありませんか。おつとめにならない場合も連絡ください。

◎ 年回忌日程について

年回忌の日時を決められる際は早目に相談してください。相談順に日時を決めています。希望日の前日に相談を受けることがありますが、ご要望に応じられないこともあります。また、年回忌は祥月命日を過ぎてもかまいません。

ひいじいちゃんへ
いつもわたしたちを見まもつてくれてありがとう。わたしは、ひいじいちゃんたちのおかげでわたしのいのちができました。わたしはひいじいちゃんに会えないからくるしいです。きつとひいじいちゃんたちもわたしに会いたいです。思います。わたしはわたしを見たい時ゆめに出てきてください。本これからも空で見てね。顔。当に大大大すきだから。顔も見たことないのに、なにを言ってるんだらうね。かぞくが一人一人いなくなるのはさみしいけど、色いろな時、空で見えてくれるんだなくともふしぎに思つてしまいます。字がきたないけどそのかわり思いはすごくきれいな思いだよ。わたしもいつかそこへいくと思うときづいてね。

荒尾華叶 かなうより
名前もだいじな心

もう一つ、「わたしもいつかそこに行くから」。仏教の「俱会一処」の思想から出た言葉ではないでしょうが、ひいじいちゃんのところに行くとの思い、ひいじいちゃんもさぞかしうれしいことでしょう。私たちも、見たこともないご先祖が生存されていたから、今、私の命があることに思いを致さねばなりません。そのご先祖が往生され、さどりの智慧をいただくので、娑婆で悩み苦しむこの私のために還相の菩薩としてこの私に寄り添い、導いておられることに気づかなければなりません。そして、ご先祖お待ち受けの阿弥陀さまの安樂浄土に往生させていただき、「俱会一処」の利益を賜るぞと心に期して、念仏無礙の一道を歩んでいきたいことです。

南無阿弥陀仏
南無阿弥陀仏